

百々読みとりおけいこ⑨（低） ねん くみ 名まえ（

地名（ばしよの名まえ）のはなしをしてみましよう。

このあたりはもともと南花山みなみかさんあるいは西花山にしきさんといつていたそうなのですが、さむらいのよのなかになると西山、あるいは小野西おのにしのしやう荘ともよばれていたそうです。

一六一三ねんの比留田家文書では「西山にしやま」とかかれています。一六七六ねんのもものでは「西之山にしやま」とかかれていて、一七〇〇ねんの山城国郷帳では「西野山にしやま」となっています。ということで、三百ねんまえにはすでに「西野山」とよばれていたのです。

百々という名まえは川の水が山科川やましながわにドドツとながれおちるおとからきているという話もあります。

中臣町なかとみちやうは、おおむかしに力をもっていた中臣氏なかとみしとかかわりがあるといわれています。ちなみに、中臣いせきではすばらしい石のナイフがみつかっています。一万年もまえから人々がすんでいたのですね。

山田という名は一九三一ねんに、このあたりが京都市きやうとしになったとき、つけられた名だそうです。山に田んぼがあったので山田なのですが、そのときは人がすんでいなかったために「山田町」とはいわないで「山田」でおわっていたそうです。

中畑町なかはたちやうや南畑町みなみはたちやうは、田んぼではなく、畑はたけが多いばしよで、しかもそのころすでに人がすんでいたのだらう、とわかりますね。でも、もしかすると、おおむかし力をもっていた秦氏はたしがすんでいたのかもしれませんが。そういうばしよは「畑」というじがつくことが多いからです。右京区の梅ヶ畑うめがはたや北区の雲ヶ畑くもがはたなどがそうなのです。

おんどくサイン↓

① なんのはなしでしょう？

② 西野山をはじめはなんとよんでいたのでしょうか？二つかきましよう。

③ 地名のうつりかわりを知るのになにでしらべていますか？

④ いいつたえ（ ） かかれたもの（ ） え西野山といいはじめたのはどのくらいまえですか？

⑤ 中臣町はなにかかわりがあるのですか？

⑥ 中臣いせきからなにがみつかっていますか？

⑦ 山田はなぜ山田町とつけられなかったのですか？

⑧ おおむかし力をもっていたのはなに氏？

（ ） 氏と （ ） 氏

⑨ あっているものに○をつけましよう。

（ ） 百々は山くずれのおとからついた名まえだ。
（ ） 山田さんが山田にたくさん住んでいた。
（ ） ここにも秦氏がいたかもしれない。
⑩ おもったことを五行でまとめましよう。

できればは？



校区にまつわる地名の話をしてみましょう。

古くは南花山^{みなみかさん}あるいは西花山^{にしかさん}といつていたそうなのですが、中世になると西山、あるいは小野西^{おのしのしやう}荘ともよばれていたそうです。

慶長十八年（一六一三）の比留田家文書^{ひる たけもんじよ}では「西山」^{にしやま}と書かれています。延宝四年（一六七六）の文書では「西山」と書かれていて、元禄十三年（一七〇〇）の山城国^{やましろのくに}郷帳^{きやうちやう}では「西野山」となっています。ということ、一七世紀に「西野山」という地名が確立したといわれています。

校名でもある百々は川の水が山科川（旧安祥寺川）にドッと流れ落ちる音からきているという説もあります。

中臣町は、古代豪族^{こくごうぞく}の中臣氏^{なかとみいせき}とかかわりがあるといわれています。ちなみに、中臣遺跡^{なかとみいせき}は旧石器時代^{ききうせつきじだい}から奈良時代^{ならじだい}までの複合遺跡^{ふくごういせき}で、すばらしい石のナイフが出土しています。一万年も前から人々が住んでいたのですね。

山田という地名は昭和六年（一九三一）に、この辺^{いっぺん}一帯が京都市に編入^{へんにゆう}された時、つけられた地名だそうです。文字通り山地に田んぼがあったので山田なのですが、その時点で人がすんでいなかったために「山田町」とはいわな

いで「山田」でおわっていたそうです。
中畑町や南畑町は、田んぼではなく、畑が多い場所ですが、そのころすでに人が住んでいたのだろう、と想像^{そうざう}できますね。でも、もしかすると、古代豪族^{こくごうぞく}の秦氏^{はたし}が住んでいたのかもしれませんが。そういう場所は畑の地名がつくことが多いからです。右京区^{うめがはた}の梅ヶ畑や北区^{くもがはた}の雲ヶ畑など各地にその例があるのです。

音読サイン↓

① 何の話でしょう？

② 西野山一帯をはじめはなんと呼んでいたのでしょうか？二つかきましよう。

③ 地名のうつりかわりを知るのになにでしらべていますか？

④ 西野山と言いつたえ（ ）書かれたもの（ ）絵

⑤ 中臣町は何とかかわりがあるのですか？

⑥ 中臣遺跡からなにが出土していますか？

⑦ 山田はなぜ山田町とつけられなかったのですか？

⑧ 上の文に出てくる古代豪族は何と何？

⑨ あっているものに○をつけましよう。

（ ） 百々は山くずれの音からついた名前だ。

（ ） 山田さんが山田の地にたくさん住んでいた。

（ ） ここにも秦氏がいたかもしれない。

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましよう。

できればは？



校区にまつわる地名の話をしてみましょう。

古くは南花山あるいは西花山といていたそうなのですが、中世になると西山、あるいは小野西荘ともよばれていたそうです。

慶長十八年（一六一三）の比留田家文書では「西山」と書かれています。延宝四年（一六七六）の文書では「西山」と書かれていて、元禄十三年（一七〇〇）の山城国郷帳では「西野山」となっています。ということ、一七世紀に「西野山」という地名が確立したといわれています。

校名でもある百々は川の水が山科川（旧安祥寺川）にドツと流れ落ちる音からきていると説もあります。

中臣町は、古代豪族の中臣氏とかかわりがあるといわれています。ちなみに、中臣遺跡は旧石器時代から奈良時代までの複合遺跡で、すばらしい石のナイフが出土しています。一万年も前から人々が住んでいたのですね。

山田という地名は昭和六年（一九三一）に、この辺一帯が京都市に編入された時、つけられた地名だそうです。文字通り山地に田んぼがあったので山田なのですが、その時点で人がすんでいなかったために「山田町」とはいわないで「山田」でおわっていたそうです。

中畑町や南畑町は、田んぼではなく、畑が多い場所ですが、そのころすでに人が住んでいたのだろう、と想像できますね。でも、もしかすると、古代豪族の秦氏が住んでいたのかもしれませんが。そういう場所は畑の地名がつくことが多いからです。右京区の梅ヶ畑や北区の雲ヶ畑など各地にその例があるのです。

音読サイン↓

① 何の話でしょう？

② 西野山一帯をはじめはなんと呼んでいたのでしょうか？二つかきましょう。

③ 地名の移り変わりを知るのに何で調べていますか？

（ ） 言い伝え （ ） 書かれたもの （ ） 絵

④ 西野山と言いだめたのは何世紀ですか？

⑤ 中臣町は何かかわりがあるのですか？

⑥ 中臣遺跡からなにが出土していますか？

⑦ 山田はなぜ山田町とつけられなかったのですか？

⑧ 上の文に出てくる古代豪族は何と何？

（ ） と （ ） あっているものに○をつけましょう。

（ ） 百々は山くずれの音からついた名前だ。

（ ） 山田さんが山田の地にたくさん住んでいた。

（ ） ここにも秦氏がいたかもしれない。

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

できればは？

